

若神組十三日講 活動継続についての役員会（特別）

2022（令和4）年8月25日（木）

於 久泉・光圓寺 14:00～16:15

役員12名（欠席2名）住職、若院

藤井 成正

今回を含め1年間の協議してきた事を下記に示す。「講員は減少するが、十三日講活動は続ける、伝承する。」

今回の検討内容を報告して、一区切りとします。

合 掌

I. 今後の活動、どうやって続けていくか。

1. 地域単位の脱講防ぐ。（家継がない、空き家化）

後継者の育成。（きっかけ）（役員、同行、講員等）

2. 広報、研修旅行、行事が重要。

3. 講員は自然減少するが、十三日講は続ける。（伝承）

4. 地域のコミュニティ、活性化、交流に必要。

5. 「こころのささえ」「世話は世話」でお返りする。

6. 会計は、またの機会に対応する。

II. 役員会（特別）の進め方

1. テーマベースは西照寺（6月13日）のワンポイントスピーチ。

①～⑩の同類項目をまとめ㉠～㉤の5項目。

2. 重要度を複数挙手で決める。

3. 各自意見を用紙に書き発表する。

4. メンバーは役員12名（2名欠席）。住職、若院

III. 5グループの内容

1. 3グループ（E. D. C）は、次ページ以後に記す。

2. Bグループ 挙手数1名検討せず。

①「心の支えとなる仏教。お東、お西関係ない。」

④「朝の法話会聞いている。」

⑦「忙しい。自分は仏心あるが、人には進めようとは思っていない。」

⑩「布教使 林 史樹さんの法話が良かった。」

3. Aグループ 挙手数0名

検討せず

①「講が太ることはない。」

③「ほうらく会：後継者・難。」

4. Eグループ 挙手数 9名

⑥「講とお寺様の関係？」 ⑧「お寺様は、講をどう思っているのか？」

地域の活動・考え方に差

- 地域によって状況が違う。寺のない地区、5回の定例会で、参拝者に説法をしていただく負担(仕事の)
- 十三日講は、他地区とのコミュニケーションが取れる。・・・必要
- 人が集まること。・・・心の置き場、安心の場である。
- 講によっては、寺のために動いている講あり。

講の立場

お寺様は、組織的には[参与]

- お寺様は、寄り添って頂いている立場。
- 講は、講員・自らが立ち上げた立場。
- 門徒推進員と寺の話していて、講が後回し細く永く。

時代、関係変化

- 昔と今、時代の変化で昔からのものを、そのまま引き継ぐことは、難しいように思われる。
- 講が寺を支えるだったかもしれないが、今は逆になっているのではないと思う。
- 関係は変化していると思う。
- 仏法伝える者として、寺からの働きかけ必要では。

世話人の後ろ姿と続いてくれる人がいない

- 父が十三日講の役をしていた。
- 講と講員のためと思っていた。
- 世話人 → 忙しい。
- 自分たちの、次に続いて下さる方を見つけれない。

寺のサポートとレフリー

- 講員は寺のサポーター、寺に対しての行事レフリー。
- 寺のサポーター

講の存続、どう考えておられるか

- 存続、皆さまの協力。
- 講をどう考えられておられるのか。
- 講の存続、真剣に考えているのか。
- 寺は講存在や門徒の存在を、どう思っているのか？

法話、内容について

- 講についてお寺様の説教、いろんな話を長くしてほしい。
- お寺さんに、法話をお願いしたい。

どうしたら良いか返答できない。

5. Dグループ 挙手数 7名

⑤「農家持続、10年経つと10軒空き家、嫁来ない。」

伝承・後継者がいない

○農家の現状は、担い手不足、人夫不足。

○農産物の価格は下落し、夢の持てない産業となっている。

○当然のように、後継者がいない、全くそのとおりではないか。

○最近、息子が・・・手伝ってくれるが・・・。
会社、うまくいかないのかと考えたりする。
孫は金沢幼稚園で・・・。

○家が絶えるかに関わらず、個人(人の中で生きる)としての救いを聞いていくことが、大事ではないか。

○長男夫婦、別生活している。

仏壇お参りしている。

○孫も若い人に、一緒についていく。

○婦人会のこと、嫁に何もいえない。

○メンドクサイ事、云えられない。

○我が家には、後継ぎがおりません。

○老夫婦のみですんで、10年という年月も・・・。

○家単位ではない存続も重視していくべき。

プラス

みなさまが受け継いだ経緯は、今後に伝える上で参考になるのでは。

世代の変化

○自分たちの世代と、両親の世代、全く生活環境が異なる。

○自分たち子供の世界、生き方も結婚も本人の考え方が基本。

(家の相続は、その中で考える・・・)

○世代を受け継いでいこうという政治経済・教育・文化から離れてしまった。

宗教との差 会える世界 ⇒ 浄土

先の見通しは難しい。

D バス3名

講家の講員 講員自然減少

○講員がどんどん減員化するので体制が弱体化している。

○毎年3%前後減ってきている。

○十三日講の持続・・・?

(我が家)

○今日はどうにか持続しているが、10年後は?

○次の世代の世話人を見つけないか?

5年後を考えているところです。

○アンケートで、今後の講の数がありましたが予想以上に講員が減る。

○後継者が居ないことを憂い手いるが、対策はない。

○現在継ぐ者がいない。

1人娘は外へ嫁に出ている・

6. Cグループ 挙手数 5名

- ②「地区の悩み。つながりが違う。日帰り研修等すれば・・・。
- ⑨「布橋灌頂会が気がかり」

講員の繋がり変化（減少）

- 講員の年齢が高くなり、年の差による繋がりがなくなっている。
- 地区のつながりは、風土や住む人によって異なるが、講としての研修は良い。

講金

- 講金・・・集めずらくなっている。（年金生活者が多い。）

広報活動・重要

- 地区民のために、広報呼びかけを考えていったらどうでしょう。
- 広報を各寺でお参り先に配布する。
- 知らない人に見てもらうようにする。
- 広報活動、たいへん重要。

本願寺への研修旅行も

- 本願寺へ参拝すれば。
- やりたいが、工夫必要。
- 本山800、850年で行くときあるか。若神組、まだ募集していない。

研修旅行重要 コロナ禍工夫して

- コロナが社会的位置づけ、変わるはずなのでできなかった。行事の準備を今から始めておくと思う。
- 研修旅行は、企画すれば良い。
- 高齢者が多くなり行く場所の検討が必要。
- 研修旅行は、今はコロナ禍だが状況を見て、できるだけ早いうちにとっている。

布橋灌頂会 無観客で

- コロナで中止が続いていました。無観客で実施の様子。
- 布橋は・・・中止すべきでは（無観客）。コロナ禍・・・増加している。

研修旅行実行し、次につなげたい

- 感動とすがすがしさ
コロナで、来年はどうなる？
順番になっていたもので、なんとか実行して、次の方につなげていきたいものです。でも今の状況では、今年も又無理のようです。

以上